

諏訪都市計画道路 3・4・20号諏訪バイパス沖田大和線
 下諏訪都市計画道路 3・4・6号高木東山田線
 環境影響評価準備書に係る公聴会 意見概要

番号	氏名	意見概要	
1	平島 安人	①	全般 <ul style="list-style-type: none"> ・気候変動関連の評価が一切なされていないという点で大きな問題があり、評価が必要。運輸部門のエネルギー消費を削減している長野県ゼロカーボン戦略との不整合が見られる。 ・長野県ゼロカーボン戦略と整合させるためにも、市民との対話をきちんと重ねて、都市計画全体としてもう一度見直しが必要ではないか。
2	下諏訪温泉旅館組合 組合長	①	全般 <ul style="list-style-type: none"> ・観光都市を目指す下諏訪町にとって諏訪大社と温泉は欠くべからず保たれるものと考えているが、正面に参道があるにもかかわらず、大社の裏から人が行き来するのはいかがなものか。
	武居 智子	②	水象 <ul style="list-style-type: none"> ・バイパスのルートに近接する下諏訪温泉の源湯への影響の有無について納得いく説明をしていただきたい。
3	宮坂 平馬	①	全般 <ul style="list-style-type: none"> ・この計画が立てられた50年以上前とは、自然や社会の状況及び認識が大きく変わっているので、計画を見直してほしい。 ・今後の人口減から交通量は減ると予想され、さらには県のゼロカーボン戦略の点から交通量は減らす必要がある。また、地球温暖化に積極的取り組みないならば、次世代への重いツケになる。
4	毒沢鉱泉神の湯 小口 富明	①	水象 <ul style="list-style-type: none"> ・湖北トンネルの開通後、宮の湯の井戸等で枯渇があった。地下水へのトンネルの影響は、現在の科学的調査をもっても解明されない部分が多いが、水源や温泉は生活の糧であるため、影響の有無を十分に調査し、慎重に進められたい。
5	宮澤 修	①	全般 <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティを分断する土塁の巨大化の要因の一つは4車線化である。将来にわたる住環境と自然環境への影響を最小限にするために、2車線化を強く求める。 ・区が要望する「コミュニティを分断しないように山間部大回りルートでのトンネル化」が温泉・水・断層等への影響を避ける事と同時に満たされるのであれば一層望ましい。

6	村上 敏夫	①	水象	<ul style="list-style-type: none"> ・準備書には高橋の計算と観測修正法が出てくるが、湖北トンネルでは出水事故が起き、長地トンネルの工事で弁天水と宮の湯の井戸水が枯れた。高橋の計算法も、観測修正法も機能したとは思えない。 ・温泉源泉は深層地下水だから影響を受けないと言っているが、湯の温度や水位の変化から深層地下水だけを汲み上げていないことがわかる。 ・南沢水源は非常に浅い地下水も汲んでおり、南沢水源井戸を深井戸と書くのは間違い。 ・角間川が3面コンクリート張りになった際の状況から、酒蔵群の五蔵のうち四蔵は角間川の伏流水で理解できるが、真澄は違う。また、角間川には横河川からの地下水などが流れ込んでいるといった記載がない。 ・事業者は影響ないというが、非科学的。現状の認識でトンネルを掘ったら、温泉街、地藏寺、慈雲寺、秋葉神社及び南沢水源に対して影響ないとはとても言い切れない。 ・五蔵や、南沢水源井戸付近で凝固剤を使用すると、地下水や醸造水の汚染が大問題になり、非常に危険。
		②	地形及び地質	<ul style="list-style-type: none"> ・国土地理院が昨年9月に発行した活断層地図によると、ルートが活断層と重なっているが、認識が甘いのではないか。
7	小坂 共栄	①	全般	<ul style="list-style-type: none"> ・このままの計画を進めると、諏訪の自然環境に大きな影響が及ぶことを危惧する。災害のリスクの高いトンネルの計画は、ルート変更、あるいは工法も全部含めて見直すべき。
		②	水象、地形及び地質	<ul style="list-style-type: none"> ・バイパスのルート周辺は、二本の大きな断層が通過する特異な地域であり、この断層に沿って多くの活断層があることを抑えておく必要がある。 ・掘削する塩嶺累層の下部層は非常に脆く、災害のリスクが非常に高い。過去にトンネル事故も起きている。 ・地下水、特に温泉水や飲用水等に強い影響がある。 ・準備書の地質・地下水に関する調査は、非常に不十分にもかかわらず、地下水に対するリスク評価を非常に低く見積もっている。
8	大野 曜子	①	全般	<ul style="list-style-type: none"> ・諏訪の土地は、温泉や地下水の豊かな唯一無二の地形である一方、独自の地震のリスクもある。リスクを再認識して考え方に取り込み、場所、場合によっては、計画の大胆な軌道修正を前提にしていきたい。 ・環境影響評価をはじめとする一連の手続きの中で、難しいことを分かりやすくして、未来を生きる世代に伝えるとともに、子供たちに考える場を与えてほしい。

9	地藏寺 住職 篠崎 知彦	①	全般	<ul style="list-style-type: none"> ・湧水が枯れてしまうのではないかと心配。観測修正法を使うとの説明があったが、本当に安心なのか。 ・専門家の意見を踏まえ、必要に応じて適切な措置を講ずるとあるが、枯れた分の水を保証しても「信仰」の水としての意味合いが無くなるのではないかと。信仰の部分での環境を守っていただきたい。 ・再開された調査結果の報告がなく不安。ボーリング調査の箇所を増やし、水の流れをしっかりと把握した上で、ルートを決めて欲しい。
		②	水象	<ul style="list-style-type: none"> ・準備書において湧水量変化の可能性があると示され、納得できない。 ・準備書前後で、湧水の調査内容が変わらない。調査結果が計画に反映されているのか不安。ボーリングを何箇所も実施し、徹底した調査をした上でルートを決め、安心させてほしい。
10	宮坂 ちとせ	①	水象	<ul style="list-style-type: none"> ・角間川の右岸と左岸では地下水が異なり、諏訪の五蔵の地下水を単純に角間川の伏流水とするのは正しくない。 ・トンネルの掘削工事で出水があれば、凝固剤使用により地下水が汚染される。酒蔵群や南沢水源の近くでは、トンネルで通過しないで欲しい。トンネルを掘るのであれば、凝固剤を絶対に使わないで欲しい。 ・地下水は、酒屋の醸造に欠かせない重要なもので、手を加えない自然の恵みを、自然に湧き出る状態で未来に残したい。 ・もっと綿密な調査をしてほしい。現状の理解レベルでは、角間川や秋葉神社の裏をトンネルで抜けることは絶対にやめて欲しい。
11	慈雲寺 住職 福田 精裕	①	全般	<ul style="list-style-type: none"> ・急傾斜地で極力地形を改変しないとしているが、慈雲寺周辺のトンネル開口部周辺では不可能。また、補助工法による環境破壊、景観破壊を懸念。 ・トンネルの開口部に墓地がある。できる限り影響がないように、どのように検討するのか説明されたい。 ・事前の水文調査の結果が環境アセスに反映されていおらず、不信を抱く。こうした点を真摯に捉え、創意工夫を凝らしていただきたい。
		②	水質 植物 景観	<ul style="list-style-type: none"> ・薬液注入については、昭和49年の暫定指針に基づき設計施工するとしているが、平成11年に湖北トンネルの地下水汚染が起きており、指針があってもまた同じことが起こるのではないかと。 ・慈雲寺の境内地の湧水量の変化により、境内地の景観や植生等が変化すると考える。わずかな箇所をボーリング調査し結論を出すのは危うい。